

王であるキリストの祝日の説教

金 大烈 神父 2010年11月21日(日)

《一致・赦し・奉仕 その王職に与る》

主の平和。(主の平和)

“王であるキリスト”の祝日は、キリストが王であること、そして私たちがキリストの教えて下さったその“王職”に与ることをもう一度思い出す祝日です。そしてもうひとつは収穫に対する感謝、また、「1年間ありがとうございました」という心を表すという意味を持っています。

イエス様を私たちは“王様”と思っているので、“王であるキリスト”という表現を使っています。イエス様はどのような王様だったのでしょうか。それについて簡単に要約してみます。

まず、“一致”の王様です。一致の意味は?“ひとつになる”こと、そういう意味でしょうか? どのようにひとつであることを一致と言いますか? **キリスト教が“一致”と言う時には、その中に必ず“十字架”があります。**イエス様が一致の為に見せてくださった十字架があります。あらゆる団体や共同体を見てみましょう。家族の崩壊、家庭の崩壊がどの国においても見られます。夫婦が分けられ、子供たちがばらばらになって、帰るところさえ探すような時代になっています。兄弟が兄弟らしくなく、色々な分裂のかたちがすぐ目に入ります。それは何故でしょうか。国がばらばらになり、教会がばらばらになり、司祭達がばらばらになり、修道者がばらばらになる。それはどういうことでしょうか。イエス様が見せて下さった一致の意味が分からないからそうなるのです。その一致を求めるには、必ず十字架を覚悟しなければならないのです。父親が父親らしく、自分に与えられる十字架を負うべきです。母親も同じです。子供も同じです。しかしお互いにその重荷を、その十字架を譲ろうとするから、いつも分裂が生じるわけです。イエス様が最後の印として見せて下さった、その十字架の意味を皆様はご存知だと思います。

私たちは、洗礼を受ける時に、“王職に与る”という言葉をよく聞いたと思います。自分はその十字架をどのくらい、喜びながら、希望を持ちながら負っているのか振り返ってみましょう。もし、皆様のご家庭の中で、色々な騒ぎやざわつく心があったら、まず自分の十字架を振り返ってみて下さい。いつも相手のことばかりを攻めようとする心があったら、結局それは自分の十字架を完全に軽んじている証拠です。

皆様よく考えてみましょう。この共同体、この太田カトリック教会は色々な国籍、色々な違いを持っている人々がひとつの共同体を作っています。その中で、一番きれいに一致の道を歩める方法は、各自、自分に与えられている十字架、その意味をまず分かって、そして感謝しながらその十字架を負う心、それが一番必要であることをもう一回考えてみましょう。

さあ、2番目は何でしょうか? イエス様は何の王様でしたか? まず“一致”の王、2番目は“赦し”の王様でした。皆様、赦していますか? 多分、皆様の小教区の司祭である、私、金神父も赦せ

ないという心を持っていらっしゃる人もいるかも知れません。(笑) 赦して下さい。皆様の為に頑張っていますから。

赦すということは私たちにとって難しいことです。いつか私は申し上げたことがあります**が、まず赦したい気持ちが許されてから、赦すことが出来ます。**赦したい気持ちさえ無いのに「赦し合え、赦しなさい」と言われても何の意味もありません。まず、赦したい心を持って下さい。皆様、気が付いたかどうか分かりませんが、2000年前、イエス様が見せてくれた彼の生涯の中で厳しいところは結構ありますが、彼は絶対に断れなかったことがあります。赦しを求める人には必ず赦して下さいました。これがイエス様が見せた一番綺麗な心かも知れません。今日の福音でも、2人の死刑を受ける者の内1人は自分に罪が無いと思い、もう1人は自分が罪人であることを認めて「赦して下さい」と願ったわけです。その結果、イエス様は『あなたは今日私と共に楽園にいる』と答えられました。私たちの命が終わるまでには“機会”があります。

もう一度申し上げます。赦された者が赦せます。赦した経験がある者に赦そうとする心が生じます。自分が毎日赦されていても、自分が赦されていることを分からなかったら、その赦しという言葉の意味さえ分かりません。皆様はつきり申し上げます。私たちは生まれてから死ぬときまで、赦し合わなければならない存在です。お互いにまず赦してもらわなければならない。当たり前のように「私は赦すべきだ」という心は、この世が終わるまで、私たちが保たなければならない心の一つです。イエス様は赦しの王様でした。

もう一つの見方があります。イエス様は“奉仕”、“施し”の王様でした。私たちは自分の顔を立たせようとする傾向があります。色々な奉仕をしていながらも、その中で“自分の顔”を見せたい気持ちがあります。しかし、私たちが王様と言うイエス様は初めから最後まで、悲惨な、へりくだる、軽んじられる姿を保ちながら、私たちにその人生を見せて下さいました。

“施し”、“奉仕”はどういう意味でしょうか？

奉仕の一番基本的なことは何でしょうか？ 簡単に考えて下さい。“条件なしにしてあげる、する”ことです。もし、やりながらもその結果が自分に返って来るのだらうという思いがあれば、99%失敗に終わります。やりたくてやることを奉仕と言います。ですから、良い見返り、誉れ、を無視して下さい。「私はこんなに頑張ったのに何故評価してくれないのか」と悲しく、さびしい気持ちになるかも知れません。しかし、それは奉仕の意味を忘れている証拠でしょう。もちろん人間的に色々なことで心を痛める場合が結構あります。良いことをしようと色々な人が集まって頑張っても、その中には悪のいたずらも生じます。良い目的に向かって頑張ろうと歩んでいても、馬鹿なことをしているとしか思われぬこともあります。しかし、イエス様は最初から最後まで、“誰かにその手をのばす”ことを私たちに教えて下さいました。その意味を考え、私たちも見習おうとする心で頑張れば、聖霊も助けて下さるでしょう。

皆様、来月の黙想会のときに、日本の教会の未来に対して、心配することはちゃんと心配しながら、

やり直すにはどうしたらやり直せるかについて話し合います。その時にも、このような言葉が繰り返して話されるかも知れません。

とにかく私たちは、純粋に“十字架、赦し、奉仕”の意味を理解しながら、自分のものにしようとする努力が必要ではないかと思ってみました。

皆様、私たち皆は品位をもっている王です。皆様一人ひとりが品位を持っている王様の1人です。そのように自分に与えられている、神様から頂いたその尊厳さ（尊厳性）に対してどのようにふさわしく応じるかについてもう一回考えてみましょう。

皆様は神様の立場から見れば、皆、尊い存在です。

ありがとうございました。